



研究所ニュース

No. 419

新年のご挨拶

研究所長 小林 哲郎

明けましておめでとうございます。虎の門病院の皆様ならびにご支援いただきました皆様に新年のご挨拶を申し上げます。本年は、虎の門病院・沖中記念成人病研究所新築工事の着工が予定されており、希望あふれる年となりました。この一年が明るく実りある年になることを念じ、皆様方の一層のご発展をお祈り申し上げます。

さて、当研究所は1973年、虎の門病院第二代院長の沖中重雄先生の「病める者の立場に常に立ち、最善で最新の医療を提供したい」という熱い思いによってこの地に設立され、本年で43年目を迎えます。設立以来、虎の門病院と緊密な関係を保ちながら、臨床の場で生じた医学的課題について掘り下げて研究し、さらには独自の基礎的な研究も加えて活動してきました。そして、これらの研究成果は虎の門病院における医療レベルの向上に大きく貢献してきました。2011年4月には、内閣府を所管とする公益財団法人として新たな一歩を踏み出し、現在は全国を対象に研究費の助成をおこなうなど、医学・医療界に広く貢献しつつあります。今後も患者さんの治療に役立つ研究ができるよう研究所の更なる発展を目指して、職員一同なお一層努力してゆく所存です。

最後に、当研究所にこれまで寄せられましたご支援の数々を感謝申し上げますとともに、今後とも各方面の皆様方のさらなるご理解と

ご援助をお願い申し上げ新年のご挨拶とさせて頂きます。

平成28年度 研究助成（下期募集分）の決定

沖中記念成人病研究所 助成事業として公募しております研究助成の申請が、今回は54機関71件ありました。うち研究課題等審査した結果、次の11件に助成することが決定しました。

小松 周平

京都府立医科大学
消化器外科
血中の分泌型癌抑制 microRNA を指標とした胃癌の新たな診断・核酸治療法の開発

島村 宗尚

大阪大学大学院
医学系研究科 健康発達医学講座
RANKL部分ペプチドを用いた脳梗塞後の新規炎症制御療法の開発

田宮 寛之

東京大学医学部附属病院
老年病科
老年疾患進展における概日リズム障害のモデル化

中川 勇人

東京大学医学部附属病院
消化器内科
新規肝外胆管癌発症システムの構築と分子発生機序解明

仲矢 丈雄

自治医科大学
病理診断部 病理診断科
大腸癌の病的蛋白間相互作用の解明とその阻害による癌選択的抑制治療の開発

中山 敦子

東京大学医学部附属病院
循環器内科
腹部大動脈瘤石灰化率のスコア化と瘤径拡大速度の予測式についての検討

西本 紘嗣郎

国家公務員共済組合連合会 立川病院
泌尿器科
アルドステロン産生腺腫に判明したイオンチャネル・ポンプ遺伝子体細胞変異が腺腫形成に関与する分子基盤の解明

早河 翼

東京大学医学部附属病院
消化器内科
胃癌起源細胞の同定と治療応用

筆宝 義隆

千葉県がんセンター研究所
発がん制御研究部
オルガノイドを用いた胆道系悪性腫瘍の包括的モデルの確立

三瀬 広記

岡山大学病院
腎免疫内分泌代謝内科学
IgA腎症合併及び非合併糖尿病性腎症を鑑別する臨床因子及び生命・腎予後の比較検

宮内 将

東京大学医学部附属病院
血液・腫瘍内科
人工多能性幹細胞を用いた慢性骨髄単球性白血病の病態解明と治療法の探索

28. 1. 5 公益財団法人 沖中記念成人病研究所

平成 28 年度 科学研究費補助金（奨励研究）の申請に伴う研究計画書の提出
今回の申請状況は、新規申請 2 件となって
おります。

日本学術振興会での審査結果は、来年 4 月
公表される予定です。

研究活動における不正行為防止への取組強化について

平成 26 年 8 月に文部科学省が制定した「研究活動における不正行為の防止に関するガイドライン」の趣旨は、従来、研究活動の不正行為の防止は研究者個人に委ねられていましたが、今後は研究者自身はもとより科学コミュニティの規律を基本としつつも、研究機関が組織を挙げて不正行為を発生させない体制づくりを求めております。当研究所もガイドラインに則した規程および関連する規約類を制定し、引き続きコンプライアンスを重視した運営を推進いたします。

寄付ご芳名

研究所ニュース 418 号以後、下記の方より
ご寄付がありました。

植田 朋子 殿 岡田 純子 殿

貴重なご寄付につきましては、ご芳志に添う
よう医学研究のため役立たせていただきます。
誠にありがとうございました。

みなさまのご健勝、ご多幸を心からお祈り申
し上げます。

当研究所は、第 2 代虎の門病院長、故）沖
中重雄の文化勲章受章（昭和 45 年 11 月）を
記念し、政・財界の支援を得て昭和 48 年 5 月
設立いたしました。虎の門病院と密接な関係の
もと、成人病（生活習慣病）の臨床的及び基
礎的研究を行っております。

研究実績を臨床の場に還元できますよう一
層努力してまいる所存でございます。

今後とも皆様のご支援ご指導をよろしくお願
い申し上げます。